

Effectiveness of Saireito for improving swelling of lower extremities after total hip arthroplasty

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 葉子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003636

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2829 号

Effectiveness of Saireito for improving swelling of lower extremities after total hip arthroplasty

柴苓湯による人工股関節全置換術後の下肢腫脹軽減効果の検討

伊藤 葉子 (いとう ようこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

人工股関節全置換術 (Total Hip Arthroplasty:THA) の術後合併症のひとつに下肢の腫脹があり、疼痛遷延やリハビリテーションの停滞をきたすことが知られている。柴苓湯は抗炎症作用と利尿作用を持つ漢方製剤であり、術後・外傷後浮腫や滑液包炎に使用され改善が得られたという報告がある。THA 術後症例において、柴苓湯による術後の下肢腫脹の軽減効果を明らかにすることを目的に柴苓湯が患肢の腫脹の改善や生化学検査に及ぼす影響についてランダム化比較試験を行った。当科で 2019 年 5 月～2023 年 8 月までに THA を施行した 212 例を対象に柴苓湯非内服群 (A 群) 104 例と内服群 (B 群) 108 例に分け、術後 3・7・14 日後の血清 CRP、Hb、術後 7・14 日後の血中 D-dimer、術後血栓の有無、VAS による疼痛・腫脹の評価、術前と術後 1・2 週目の下肢周囲径 (膝蓋骨上縁から 10cm 近位部・下腿最大・下腿最小) の変化率を評価した。統計解析は T 検定を用い、p 値は 0.05 未満を有意差ありとした。解析ソフトは EZR を使用した。また、順天堂医院臨床研究審査委員会の承認を受け研究を行った。(jRCT1031180384)

術後 14 日目までの採血において、CRP、Hb、D-dimer は両群に有意差を認めず、術後血栓の発生にも有意差を認めなかった。また、VAS での疼痛と腫脹にも両群に有意差を認めなかった。術後 7 日目の下肢周囲径はいずれの部位でも両群に有意差を認めなかったが、術後 14 日目の下肢周囲径の変化率は、大腿部にて A 群の平均 $-8.41 \pm 30.3\%$ に対し B 群が $-18.9 \pm 40.1\%$ ($p=0.032$)、下腿最大部でも A 群の平均 $-9.3 \pm 29.8\%$ に対し B 群が $-19.0 \pm 40.1\%$ ($p=0.046$)、そして下腿最小部でも A 群の平均 $-7.3 \pm 30.6\%$ に対し B 群が $-17.4 \pm 41.0\%$ ($p=0.044$) と、B 群が A 群よりも有意に改善した。

THA 術後の下肢の腫脹は疼痛遷延やリハビリテーションの停滞を認めること多く、これらを改善することで早期離床と早期退院を目指すことができる。柴苓湯の投与により、腫脹が早期に軽減し早期の退院につながると考えられた。